史料館所蔵史料目録　第68集

山城国諸家文書目録（その二）

山城国京都飛鳥井雅豊日記

山城国京都駕輿丁文書

山城国京都三条西家文書

山城国京都袖岡玄蕃助家記

山城国京都徳大寺家文書

山城国京都二条家文書

山城国京都堀之上町万屋小堀家文書

平成11年３月

史　料　館

史料館所蔵史料目録　第68集

山城国諸家文書目録（その二）

山城国京都飛鳥井雅豊日記

山城国京都駕輿丁文書

山城国京都三条西家文書

山城国京都袖岡玄蕃助家記

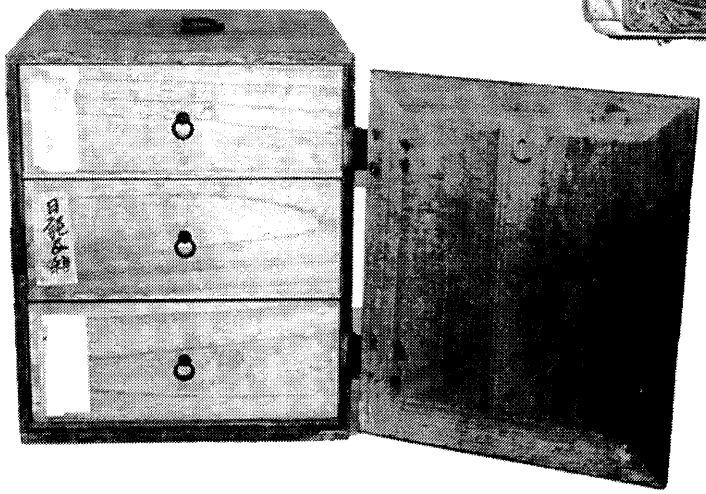
山城国京都徳大寺家文書

山城国京都二条家文書

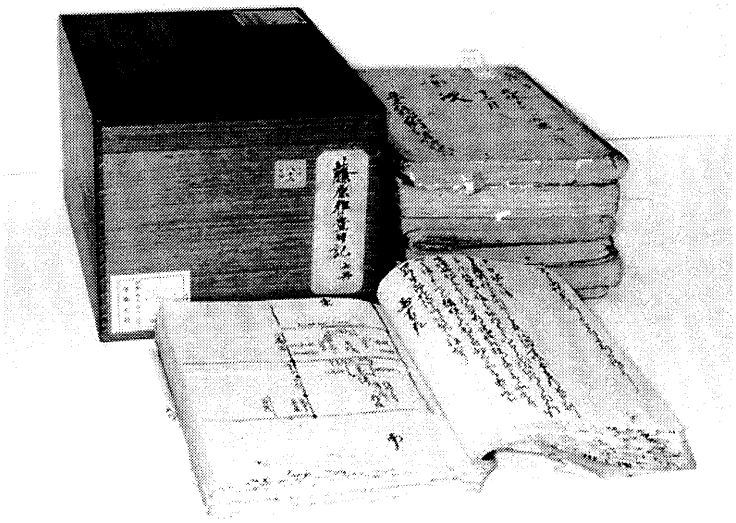
山城国京都堀之上町万屋小堀家文書

①二条家文書箪笥（前方）

③二条家文書「御玄関日次記」（No.1）



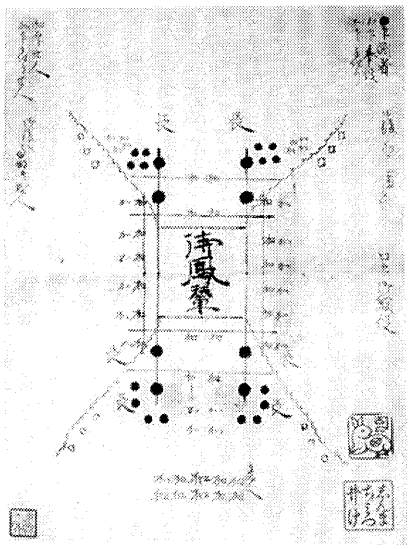
②二条家文書箪笥（内側引出し）



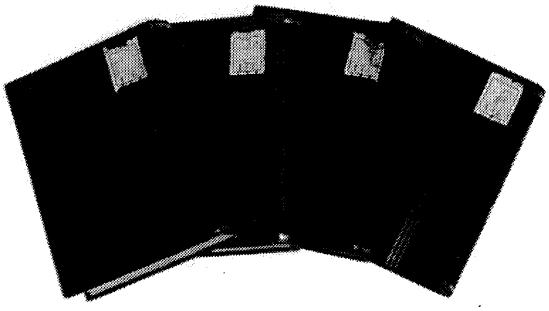
④飛鳥井雅豊日記

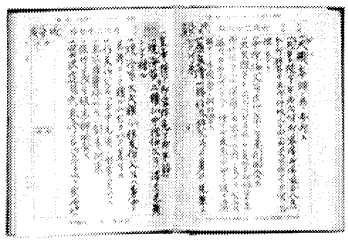
⑤駕輿丁補任状（26 S No.23）

⑥「御鳳輦駕輿丁奉仕手配図」（26 S No.20）



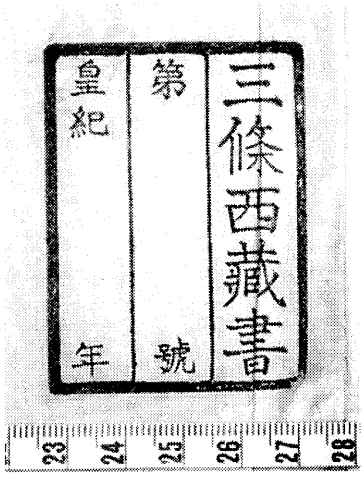
⑦「德大寺公弘自筆日記」（32 G）





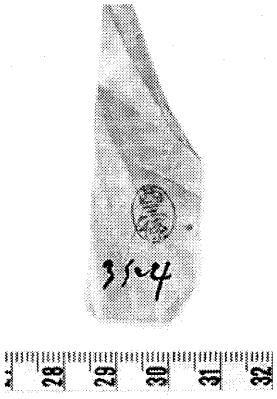
⑧袖岡玄蕃助家記（26 Y）

⑨三条西家「蔵印1」



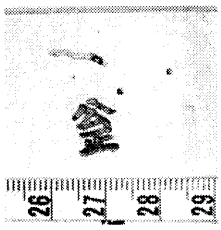
⑩三条西家「蔵印2」

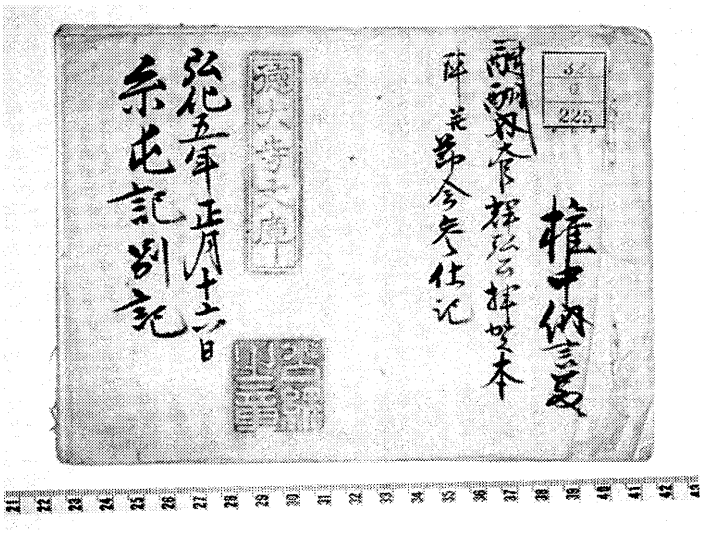
⑪三条西家「公福印」



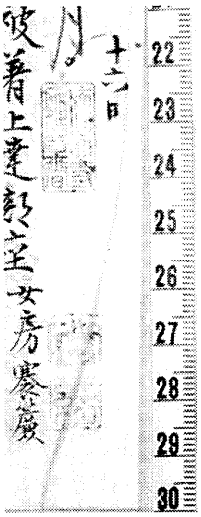
⑫三条西家「西三條印」

⑬三条西家「公正印」

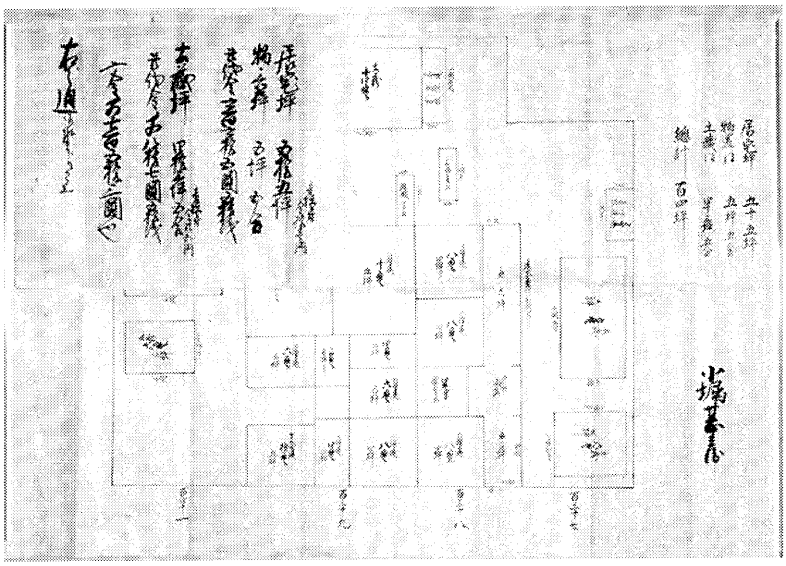




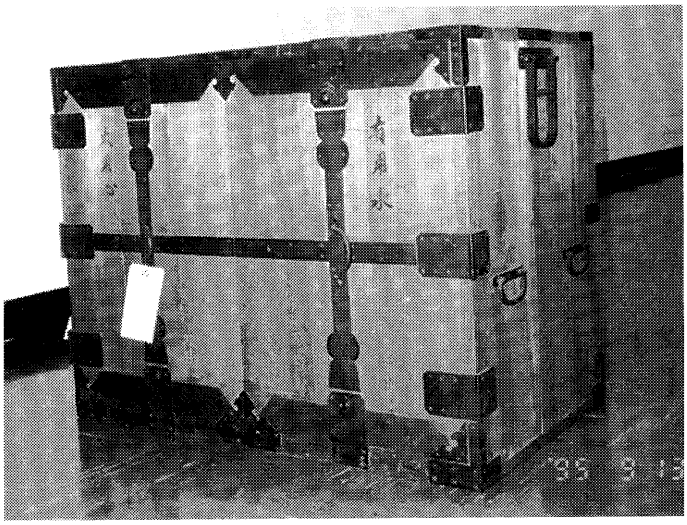
⑭「徳大寺文庫」印・「公純之章」印



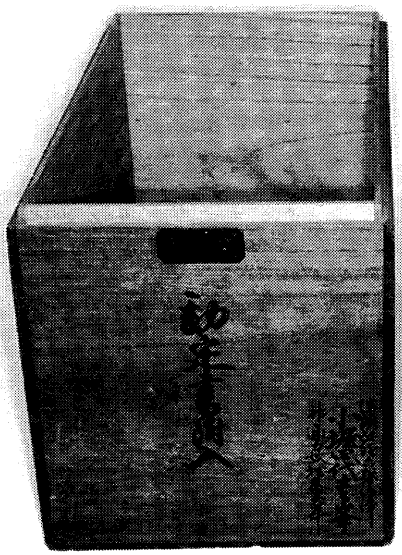
⑭「徳大寺蔵書」印・「公」「純」印

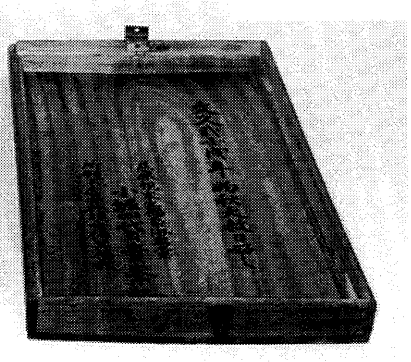


⑯小堀家屋敷図（33 H No.98）



⑰東京経済大学図書館所蔵小堀家文書箪笥





⑱史料館所蔵小堀家文書箱

凡　例

○本目録は、『史料館所蔵史料目録』第68集「山城国諸家文書目録　(その二)」として、次の７件の史料群を収めた。

「山城国京都飛鳥井雅豊日記」(公家)

「山城国京都駕輿丁文書」(地下官人)

「山城国京都三条西家文書」(公家)

「山城国京都袖岡玄蕃助家記」(地下官人)

「山城国京都徳大寺家文書」(公家)

「山城国京都二条家文書」(公家)

「山城国京都堀之上町万屋小堀家文書」(商家)

なお、当館が所蔵する山城国を出所地域とする史料群は、すでに『史料館所蔵史料目録』第31集に「山城国京都久世文書」「山城国京都平松家文書」の目録が刊行され、『同』第63集では「山城国諸家文書目録　(その一)」として「山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書」「山城国京都三條家文書」「山城国京都清水谷家文書」「山城国乙訓郡長野新田村三宅家文書」「山城国乙訓郡菱川村文書」の目録を刊行している。

○目録本文では、史料群全体の構造を表現できるように配列した。史料群の有する内的秩序を復元・再構成しようとする形で、大・中・小項目を立てて分類・配列した。また、必要に応じて○印で細項目に分けたところもある。

○史料目録に記載した史料情報は、１点単位では、１，表題　２，作成者および授受関係(差出→宛名)　３，作成年代(月日)　４，形態　５，数量　６，整理番号　７，備考である。それらの記載順については、各目録の本文の冒頭に例示した。「表題／作成・授受関係／備考欄」は、１行目から表題を記し、改行して作成・授受関係、備考を記し、作成・授受関係と備考はカンマ(，)で区切った。

○表題は原表題をとり、表題のない場合は内容から推定した表題に〔　〕を付した。その上で、さらに内容を補記する必要がある場合には、(　)内に記した。書冊型史料については内題を採用し、内題のないものは外題を採用した。ともにない場合は首題、小口書等から判断したが、いずれもない場合は内容から判断した表題を〔　〕内に記した。状型史料については、柱書のある場合はそれを表題として採用し、内容を補足する必要がある場合には(　)内に補記した。柱書のない史料は、〔　〕内に古文書学的名称を付与し、内容を補足する必要がある場合には(　)内に補記した。

○作成者は史料上の記載通りとした。ただし、作成者の記載がない場合でも『国書総目録』等において作成者が明らかなものについては、その氏名を作成者として記入した。差出・宛名は史料上の記載をそのまま採用し、敬称もそのままとした。差出と宛名の関係は、差出→宛名と表示した。花押が書かれている場合は(花押)、印が押捺されている場合は(印)と記し、写や案文等において印の有

無が記されている場合はその通りを記載した。例：某花押、某印。

○作成年代(月日)は和年号で記し、算用数字で表記した。年号が明らかな場合は干支等は省略したが、干支のみの場合はそれを採録した。史料内容から推定した場合は、(　)を付けて示した。書写年代は備考欄に奥書全文を掲載した。ただし、長文の場合は一部を省略したものがある。

○形態については、次のように略記した。

竪帳：大美濃判→大美　美濃判→美　半紙判→半　中形本→中　小形本→小　升形本→升

竪帳切本：美濃判竪帳二つ切本→美二切　美濃判竪帳三つ切本→美三切　半紙判竪帳二つ切本→半二切　半紙判竪帳三つ切本→半三切　横帳→横　折本→折

奉書紙・檀紙等の大型の料紙を用いた竪紙／折紙→竪／折、美濃判を用いた竪紙／折紙→美／美横折、半紙判を用いた竪紙／折紙→半／半横折、一紙を切って料紙とした切紙→切、切った料紙を糊継ぎした切継紙→切継

上記以外で形態が特殊な場合は、必要に応じて法量をcm単位で(縦×横)で形態の欄に補った。なお、各文書群に特徴的な形態については、各解題のH．形態の特徴において解説した。

古記録、有職故実などの典籍で外表紙(共紙以外の表紙)を持たない場合は、仮綴である旨を示すために形態に「仮」と表記した。例：仮美　1冊、仮半　1冊など。ただし、記録文書の書冊型史料は共紙の表紙を用いるのが基本形態なので、その場合は仮綴の表記はしていない。

○数量の単位は、書冊型史料は「冊」、状型史料は「通」、絵図・指図などの史料は「舗」を用いた。

○備考欄には、紙背文書の有無、書写奥書、蔵書印の有無、形態に関する補足記事、古記録等の別名などの参考記事を載せた。

○整理番号は、すでに仮番号が付されている場合はそれを尊重した。紙縒、包紙、袋などで一括された史料小群については、枝番号、孫番号を付し、それらが集合体として伝存していた状態を1点単位の史料情報の左側に線を施して一括の範囲を示し、文書の相互の関係を階層的に理解できるようにした。包紙、袋、封筒の史料情報の一部は、枝番号0を付与して単独の史料情報としてデータ化したものがある。

○史料の利用にあたっては、各解題を参照されたい。

○本目録の編集は、福田千鶴が担当した。

総　目　次

口絵写真
凡例
総目次
山城国京都飛鳥井雅豊日記目録
解題 …… 3
目録 …… 6
山城国京都駕輿丁文書目録
解題 …… 9
目録 …… 11
山城国京都三条西家文書目録
解題 …… 17
目次 …… 30
目録 …… 31
山城国京都袖岡玄蕃助家記目録
解題 …… 79
目録 …… 81
山城国京都徳大寺家文書目録
解題 …… 85
目次 …… 95
目録 …… 97
山城国京都二条家文書目録
解題 …… 161
目次 …… 180
目録 …… 181
山城国京都堀之上町万屋小堀家文書目録
解題 …… 207
目次 …… 217
目録 …… 218